



ネイチャーぼうけん & 防災キャンプ

～留学生たちと楽しくまなぼう～

CANOUÉ

きつくろう

自然の木やえだで、チャレンジ！

[企画] こども防災協会

[補助] 日本財団

こども防災協会
サバイバル・コンテンツ

LET'S GO

CANOE

きつくぞう

自然の木やえだで、チャレンジ！

災害はとつぜん、起こります。時間も、場所も、選べません。
想像できないことが起こります。

そんな中で、よりよい判断と行動をするのは大人でも難しいことです。

こども防災協会では、「いつ」「どこで」「ひとりでも」
こどもが自分で自分のいのちを守るために、
具体的に「判断」「行動」できる力を育むことをめざしています。

今回、日本財団「海と日本プロジェクト」の事業として開発をしたのは、
自然の木やえだでつくる「カヌー」。1～2時間前後でつくれます。

カンタンな分、ふつうの船のような機能はありませんが、
実際の災害でも、まわりにあるものを使って浮くものをつくり、
水にぬれずに体温を保持することは、とても大事です。

安全に気をつけて、ぜひ、ご家族などで楽しんでください。

「こども防災協会」

主に東日本大震災でこどもさんや大切な人たちを亡くしたご家族の経験と想いを受けて、2017年3月11日に設立されました。いざという時、生きのびる(72時間)こどもを増やすことをミッションに、こどもの防災に関する取組を行っています。

<http://kodomo-bousai.net/>



「海と日本PROJECT」(補助：日本財団)

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、ときに心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、全国の人たちが「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進しています。



ネイチャーぼうけん & 防災キャンプ

CANOE

もりのふくそう

- ぐんて
- 保護ゴーグル
- ぼうし
- シューズ
- 長そでの上着
- 長ズボン



ふくそう



工具 (Tool)



カヌーづくりの道具

- メジャー
- はさみ
- えだきりばさみ
- のこぎり
- ビニールシート
- 麻ひも



みずべのふくそう

- みずぎ
- タオル・ビニール袋
- ひやけどめ
- はおりもの
- ウォーターシューズ
- ライフジャケット
- オール



Canoe
01-01 木のみきやえだを、ひろって集めてくる

山や森の中におちている木から、太めのみきやえだ、細くて長いつるなど、さまざま!なものをあつめてこよう。立っている木をカットするのはNG!



あつめる木

- かわいているもの
- スカスカでないもの
- くさっていないもの
- トゲがないもの
- 落ちているもの

Canoe
01-02 枝のトゲなどをはらう

この時点ではあまり短くしすぎない方がよい。枝などは、木と木の連結の際の支点になるため、一定程度は残しておいた方がよい





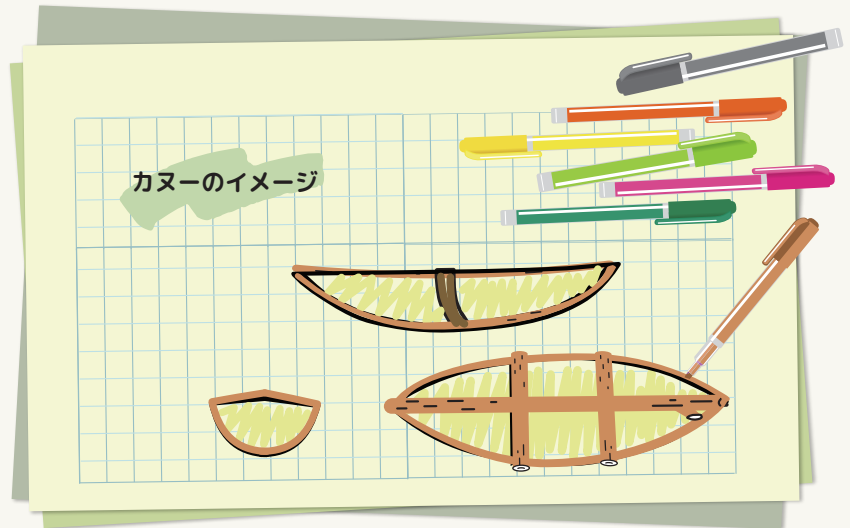
Canoe
01-03 イメージ図をかく

拾ってきたえだのながさや太さなどをみながら、
方眼紙に、カヌーの設計図をかいてみよう



くみあわせのコツ

- ✓ しなりやすいもの
- ✓ こぶなどがあるもの
- ✓ 形があうもの



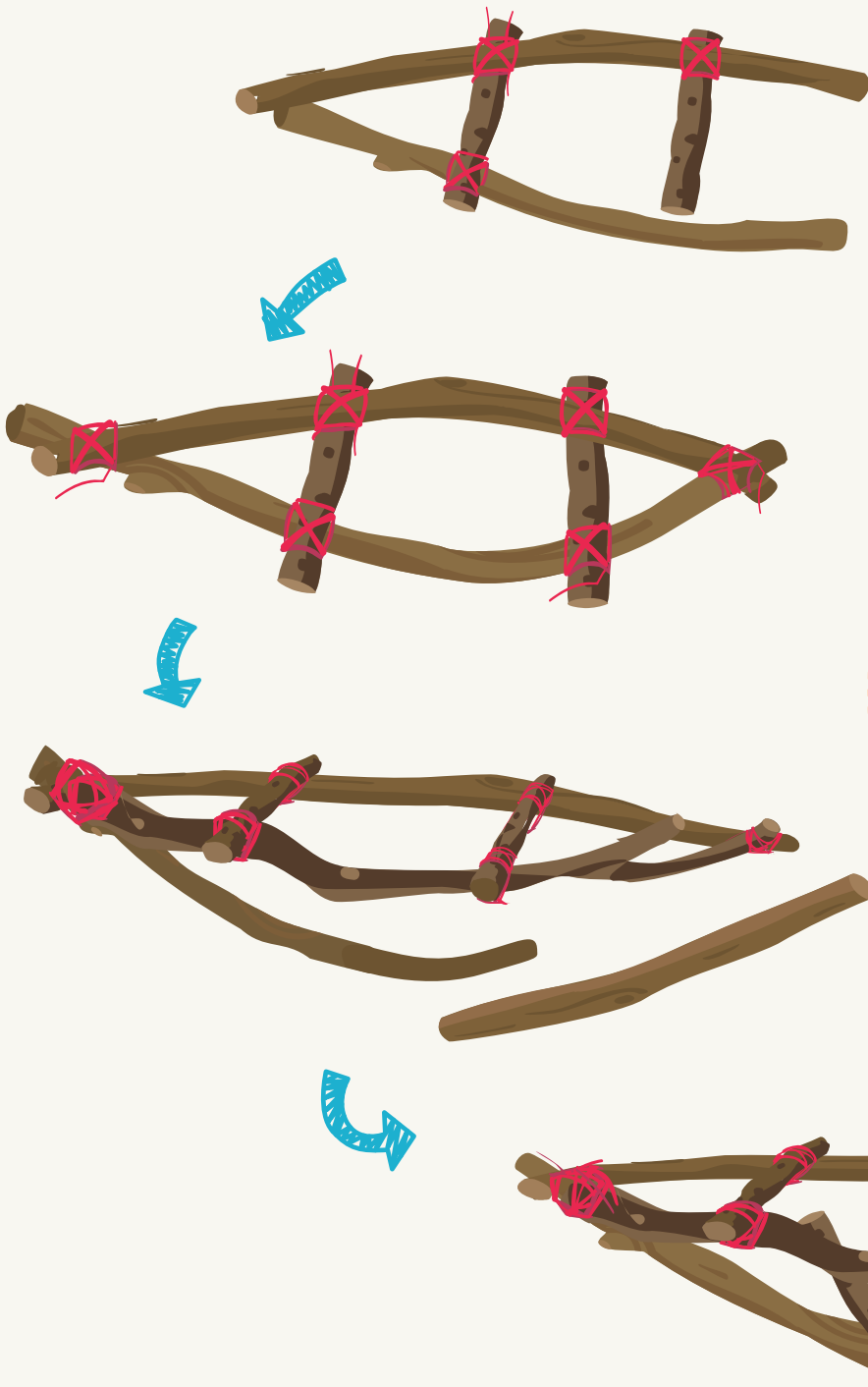
Canoe
01-04 骨ぐみとなる木材を選ぼう

カヌーの形をイメージしながら、骨になる木を選ぼう。
実際においてみて、形がしっくりくる[くみあわせ]を見つけよう



Canoe 01-05

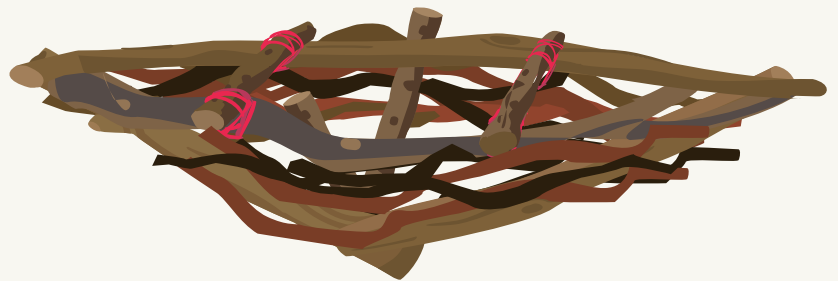
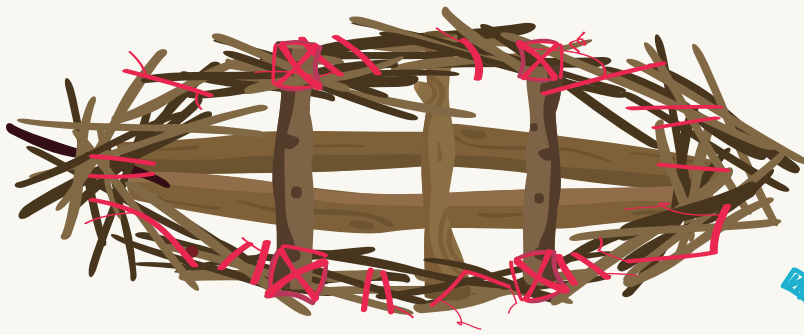
ロープワークを使って、カヌーのフレームを組もう
しっかりした枝を使い、カヌーの上の部分のフレームを組んでいく。
ひもの色は、あとで解体しやすいようにめだつ色のものをつかおう



Canoe
01-06

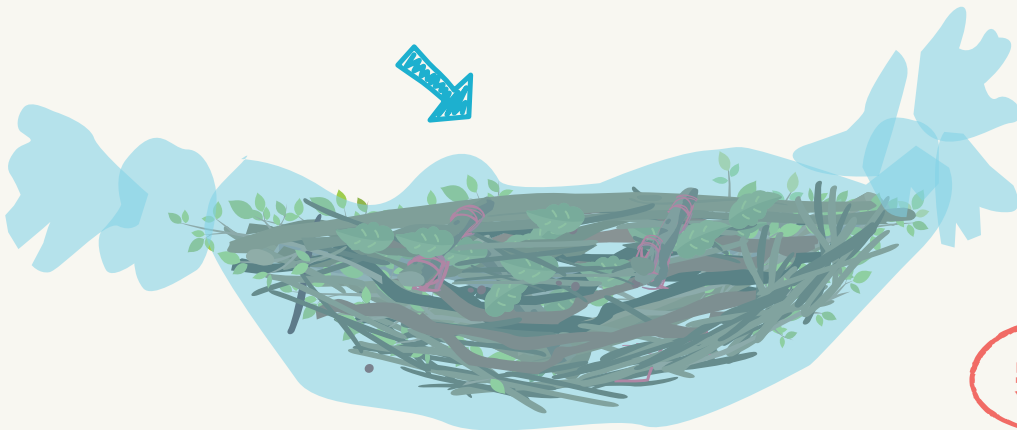
こえだを組み合わせて、あつみをだそう

木で組んだカヌーのフレームに、いろいろな大きさの
こえだを組み合わせて、カヌーのボディをつくっていくよ



Canoe 01-07 カヌーに水が入らないようにしよう

えだとえだの間に、葉っぱのついたえだや枯れた草などをいれこんで、あまりすき間がないように、みっしりとえだや葉っぱをつめた方がいいよ。うまく浮かばない場合レジャーシートやビニール袋もつかってみよう



つくり方のコツ

- 座面を葉っぱでおおう
- すき間をなくす
- 左右で同じ大きさに

完成

Canoe
01-08

うみや水の中に、手づくりのカヌーを入れよう

足場を確認しながら、まずはカヌーが水に浮くかを確認。

うまく浮いたら、まずは1人がそっと乗ってみよう。

大きさやできによるけれど、2人か3人まで乗れることが多いよ

風でながされてたり、
ひっくり返ったりもするので
レスキューボートなどを
用意してからあそぼう！

ライフジャケット

